



鎮目社長

【東京】フコックス(鎮目隆雄社長、東京都江東区)は、東日本大震災で発生したのがれきに含まれる木くずをバイオマス燃料に作り変えるなどの環境リサイクル

フコックス

# がれき処理事業化

## 木くずからバイオマス燃料

### 環境リサイクルで被災地支援

事業を進めている。同社が汚染土壌などのリサイクル事業で培ってきたノウハウやネットワークを生かし、今後被災地のがれき処理や土壌改良などの環境事業を通じて、被災地支援を続けていく。

セメントを中心とした粉粒体輸送や食品分野の3PL事業をメインとする同社は、10年前から本格的に環境リサイクル事業に参入。

建設業の営業許可を取得し、産業廃棄物処理や化学分野の有資格者を配置するなどして、廃FRP(繊維強化プラスチック)の再樹脂化や、糞尿と廃古畳を利した有機堆肥化といった各種リサイクル事業を行っている。

同社は震災後のがれき処理の状況を調査するため、社員を現地に派遣。がれきの種類や混合状態を見たり、自治体へのニーズ聞き取りなどを行った結果、こ

れまでの環境リサイクル事業のノウハウを応用できると判断。9月に仙台支社(仙台市青葉区)を開設して常駐の支社長を派出させ、現地採用の社員と2人体制で業務を本格的に始めた。

第1弾として、宮城県気仙沼市と業務提携し、がれきから取り出した木くずをバイオマス燃料に変える事業に着手。分別作業や輸送は現地の協力会社に依頼し、現在、1日10両前後のトラックで提携先の燃料工

場に木くずを運び込んでいる。今後も燃料の製造工場や需要先を増やしていく。

がれき処理事業では、宮城県南三陸町や岩手県山田町などからも引き合いが来ている。津波によって田畑

に海水やヘドロが溜まったままの状態であることを踏まえ、土壌改良事業も検討している。同社では放射性物質で汚染された福島県内のがれきの処理も状況に応じて受け入れていく考え。

鎮目社長は「環境事業で培ったネットワークを生かし、がれき処理が少しでも早く進むよう、関係者と連携して被災地の復興に貢献したい」と話している。

(北 博樹)